

緩やかな信頼を 多くの人と

緩やかな信頼感を
多くの人と持つことは、
さまざまな社会問題を
防ぐようです。(10～11ページ)

大人の姿を 子どもは見ている

子どもは言葉だけでなく、
大人たちの姿勢からも
多くを感じ取っているようです。
(12～17ページ)

子どもの 自ら育つ力

子どもたちが人と交わり、
自分の力で学んでいくことの
手助けをしている授業を
紹介しました。
(6～7ページ)

変わる環境 変わらない子ども

子どもの過ごす、
学校でも家庭でもない時間は、
時代とともに大きく変化しました。
大人たちの工夫と努力を紹介しま
した。(8～9ページ)

基本は家庭。 子どもに心を与えて

子どもたちにとって、
帰る所はいつの時代も家庭。
心を与えることは、
親の大切な役割であることを
お聞きしました。(2～3ページ)

支えてくれる人が 必ずいます

子育てを独りで抱え込む親。
地域には、それを支える人たちが
たくさんいます。
その一部を紹介しました。
(4～5ページ)

「一人の子どもが育つには、 村中の大人が必要」

そんなことわざが、アフリカにあるそうです。
親や学校だけでは大人にはなれない。何千何万という人とつながり、かかわって、大人として自立していく—。
実際に取材では、いろいろな人と交わりながら育とうとする子どもたちの姿が見られました。
そして、その力をゆがめずに見守る大人たちのまなざしがありました。
子どもたちの「信頼感」をはぐくむために、私たち住人の交わりが必要です。
カーテンを開けよう。生身の社会に飛び込もう。未来の大人たちのために。

(特集終わり)